

J A施肥アドバイザー認証制度をスタート ～J A営農指導力の強化へ～

J A全農かながわは、土壌や肥料に関する幅広い知識を持ち、生産現場で有効な施肥設計を提案する知識を持った人材を育成するため、「J A施肥アドバイザー」、「J A施肥マイスター」資格認証制度を発足した。「J A施肥アドバイザー」は、土壌や肥料、土壌改良材の基本的知識を有し、土壌分析結果から処方箋を作成できる人材で、座学及び圃場実習による全4回の講習を受講後、筆記試験に合格した者をJ A全農かながわ県本部長が認証する。

「J A施肥アドバイザー」合格者は、更に専門的な知識と栽培上の知識をあわせ持ち、生産者とともに課題解決に取り組む事を目標に、実技編、指導編、総合の全6日間の講習を受講し、全カリキュラムに合格する事で「J A施肥マイスター」に認証される。

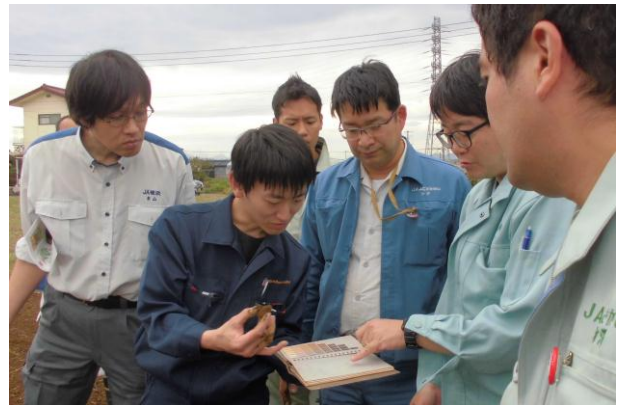
「J A施肥マイスター」認証取得後は、営農指導技術に関する情報や課題を共有し、技術の維持向上を図るため、定期的な研究会の開催などで「施肥マイスター」のネットワーク化を図りたい考え。将来的には「J A施肥マイスター」が「J A施肥アドバイザー」育成まで行えるよう、研修等で支援していく。

11月16、17日の2日間、全農かながわは初の「J A施肥アドバイザー講習会」を田村事務所で開催し、県下J Aの営農・経済・購買担当者ら15名が参加した。初日は、肥料の種類や特徴、構成要素の化学的な知識、施肥効果や使用上の留意点などを座学で学び、翌日は実際に圃場に出て土壌サンプルを採取し、土壌の物理性診断（土性や土壌の固さ、保水性などの調査）や化学性診断（土壌の酸度や養分含量などの調査）の基礎を実地研修した。12月に開催する残り2日間の講習では、全農営農・技術センターで簡易土壌分析機器を使った土壌診断や、分析結果に基づいた処方箋作成について学び、最後に認証試験を予定している。

「J A施肥アドバイザー・マイスター」認証制度の発足には、「土壌診断の結果を有効活用できない。施肥効率が上がらない」等の課題を解決するため、施肥設計ができる人材育成の要望がJ Aから寄せられた事が背景にある。J Aグループ神奈川「営農経済プラン」では、「J Aグループの営農指導力強化」を表明しており、同制度の発足により、肥料分野では一歩踏み出した形といえる。これまで専門性の高い肥料・農薬分野は、県など行政専門機関と協力して組合員の相談に対応してきたが、こうした人材は全国的にも減少傾向にある。J A全農かながわとして専門知識を持つ人材を育成し、農家組合員の相談に対応できる体制を整えていきたい考え。



土壌のEC電気伝導度を測定する受講者



土質別の触感や色の違いを確認する受講者